

# 探花会（松竹梅・新春初詣他）

（第58回）

日程 平成27年1月11日（日）

行程 東京都足立区：千寿七福神・西新井大師

今回も天気は良く風もなく絶好の行楽日和でした。北千住駅から足取りも軽く商店街を右折し、旧日光街道と平行の道を最初の千住本氷川神社へと歩を進めました。

この七福神は、参拝期間が元旦より7日までなので、今日11日はちらほら程度でしたが、かえって混雑しておらず順調に進めることができた。しかし、午後1時半に食事処を予約してあったので、引率者としてはハイペースで歩くことを免れなく、毎度のことながら怒られながらの行程を辿った。

## 千寿七福神めぐり (Tour of the Seven Deities of Good fortune)

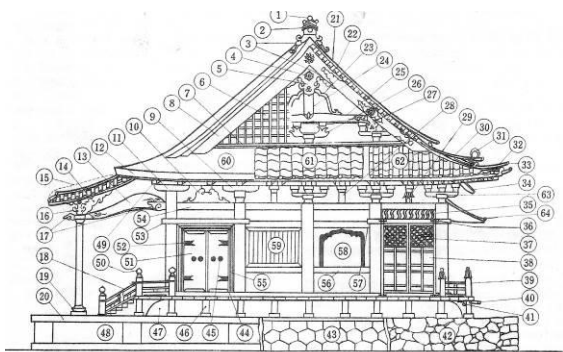
最寄駅 東武スカイツリーライン・東京メトロ千代田線／日比谷線／半蔵門線

・JR常磐線／筑波エクスプレス「北千住駅」／京成本線「京成千住大橋駅」

### 千住宿

日光・奥州街道の最初の宿： 寛永2年（1625年）、三代将軍家光のとき、日光街道の初宿に指定された。江戸四宿 千住（日光・奥州街道）、板橋（中山道）、品川（東海道）、内藤新宿（甲州街道）の一つで、うち最長の町並みの宿場町、幕末には家数約2300軒、人口約1万人を数えた。日光道中の整備の一環として千住周辺の集落を街道沿いに集めて造られた宿場町 岡場所（江戸時代に江戸で政府の許可を得た吉原以外の遊郭で、非公式に遊里を営む場所）としても有名であった。

### 千寿七福神 千住本氷川神社（大黒天） 千住3-22



全国庭園ガイドマップ

京都府林業協会編 誠文堂新光社刊 昭和44年12月25日 第一版発行



氷川神社として徳治2年（1307年）に創建され、明治時代に荒川芳水路を建設するために、牛田氷川神社を合祀した。昭和45年に社殿を新築したため、旧社殿は末社として保存されている。社前には、ウメが植えられ、左側の植込みの中に「春も漸（やや）けしきととのふ 月と梅」と詠まれた芭蕉の句碑がある。

旧社殿の向拝（図13 こうはい=ごはい=神社の社殿や仏堂の正面階段の上に張り出した廂（ひさし）の部分）は、千鳥破風（図C ちどりはふ=屋根の斜面に取り付けた三角形の装飾板）、その前面が唐破風（図E からはふ=反曲した曲線状の装飾版）となり、二重の破風を形成し、頭貫（図54 かしらぬき=柱の上部のつなぎとした貫）や虹梁（図13 こうりょう=やや反りを持たせて造った梁）の部分には、龍や鳥類の彫刻が施されて趣きがある。

本殿は、方一間（1.8メートル）余りの木造で、切妻造り（図A）の平入り形式（図A ⇔妻入り形

式)をなし、屋根は箱棟(はこむね=大棟を箱型にしておおったもの)こけらぶき(柿葺=ヒノキ又はマキを薄く剥いだ板で葺いた屋根)で、勾配が美しい曲線を呈している。軒回りは二重垂木となり、組物も巧緻で処々に彫刻が施され、趣きのある社殿である。

現地にある東京都足立区教育委員会の「千住本氷川神社旧社殿」の銘板を参考にし、建築様式については加筆した。

**大川町氷川神社(布袋尊)** 千住大川町12-3

荒川放水路完成時(昭和2年)、氷川・稲荷・浅間の3神社を現在の場所に統合した。高さ3mの富士塚がある。

**元宿神社(寿老神)** 千住元町33-4

由来は、日光街道が出来ると共に、「千住宿」に対して、「元宿」と称していた場所を開墾して八幡神を鎮守としたことによる。

武田家初代の当主である武田信義が、戦場で八幡菩薩像を背負って戦い必勝を祈願した。その菩薩像が奉納されている。



**千住神社(恵比寿天)** 千住宮元町24-1

起源は、千崎稲荷(平安時代に創建)と二ツ森の氷川神社を合祀した西森神社による。戦災(昭和20年)により建物のすべてが焼失したが、昭和33年以降に再建された。

**八幡神社(毘沙門天)** 千住宮元町3-8

源義家(愛称八幡太郎)が奥州討伐で滞陣したときに、白旗を立てて戦勝したところに建てたとも言われている。

**千住河原町稲荷神社(福祿寿)** 千住河原町10-13

古くは村社であったが、今は東京都中央卸売市場足立市場の鎮守となっている。木造ウルシ塗りの大神輿がある。

**仲町氷川神社(弁財天)** 千住仲町48-2

境内には氷川神社、弁財天、関屋天満宮、稲荷神社がある。弁財天は元禄2年(1689年)に造られた庚申塔。

仲町氷川神社は、おくのほそ道矢立初の碑等芭蕉関連の千住大橋近辺を歩いた後に訪れる。

**おくのほそ道矢立初の碑** 千住橋戸町31



松尾芭蕉は、元禄2年3月7日に「草の戸も住み替はる代ぞ 雛の家」と詠んで江東区仙台堀川の海辺橋畔の杉風の別荘採茶(さいと)庵に移った。深川芭蕉庵には延宝8年(1680年)~元禄7年(1694年)5月まで住んでいた。大阪で病没し、遺言により大津の義仲寺に埋葬された。

月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて 老いを迎ふる者は、日々旅にして、旅を栖とす。

古人も多く旅に死せるあり。

松尾芭蕉の詳細は別添の江東区芭蕉記念館「芭蕉年譜」を参照されたい。

元禄2年(1689年)3月27日門人河合曾良を伴い深川から舟で発った松尾芭蕉

〔寛永21年（1644年）～元禄7年（1694年）〕は、隅田川をさかのぼり千住で上陸し「奥の細道」の旅に出た。

千じゅと云所にて船をあがれば、前途三千里のおもひ胸にふさがりて、幻のちまたに離別の泪をそゝく。「行春や 鳥啼魚の目は泪」是を矢立の初として、行道なをすゝます。人々、途中に立ちならびて、後かげのみゆる返はと見送なるべし。



千住から2里8丁（約8.8km）第2の宿場町草加に辿り着く。

草加松原の札場河岸公園に芭蕉像があり、見返りの姿をしている。

1泊目は粕壁（春日部）であった。

最終地点大垣で詠んだ句「蛤の ふたみにわかれ 行く秋ぞ」

千住の「行く春」と大垣の「行く秋」は対になっている。

**千住大橋** 隅田川に架かる橋

文禄3年（1594年）徳川家康の命で、代官頭伊藤備前守忠次が建造。伊達政宗が寄進したとのこと。水に強いマキ（槇）の木が橋杭に使われていた。

## 東京都中央卸売市場足立市場

江戸初期からの東都三大青果市場の一つ 神田、駒込、千住 元「やっちゃ場」の地 = 青物市場 千住の魚河岸 生鮮食料品の卸売市場

## 西新井大師 東京都足立区

五智山遍照院総持寺といい、真言宗豊山派に属する。弘法大師（空海）の創建。本尊は空海作の十一面観世音像で、川崎大師とともに厄除開運の霊場として知られる。江戸時代には関東7カ寺の一つとして中心的な存在であった。本堂は、徳川中期の再建、14間四面、総檜、入母屋破風造りの威容を誇っていたが、昭和41年5月25日に火災により焼失した。現本堂は昭和46年12月に完成した。

**三匠堂（栄螺堂）** は、天保5年（1834年）弘法大師千年忌に、江戸の伊勢屋彦兵衛という者が四国八十八ヶ所霊場の砂を持ち帰って埋納した上に建てたという。「西の長谷寺、東の西新井」と呼ばれた**ポタン**の名所

やがて、西新井大師を訪れた組が食事処はな仙にたどり着き合流して本日の反省をしつつ、寛ぐことにした。 飲食後、散会した。本日もお疲れさまでした。